

牛を愛するあなたのもとへ

発行所：社団法人 ジェネティクス北海道

発行人／渡辺浩一

平成21年11月24日号

Sire

サイア

Vol.379

11
月号

CONTENTS

- 2 2009-III NTP一覧表
- 4 海外レポート
アメリカの乳牛改良状況
- 6 酪農とエコ
温室効果ガス削減とこれからの酪農
- 9 連載② サイロサイレージ物語
- 10 性選別精液 (GH-X・F) のご紹介
- 12 第6回 ジェネティクス北海道
黒毛和種枝肉共励会
- 15 家畜(牛)人工授精関係の講習会
修業試験合格者について
- 16 全道共進会で最高位賞!!

2009年-III 11月種雄牛評価成績(総合指数順位)

網掛けはGH種雄牛、網掛けは共有牛

Table with columns for animal ID, sire, name, and various performance metrics including body composition, milk production, and sire selection. Includes a section for '上記以外のGH種雄牛'.

アメリカの乳牛改良状況

去る9月末にアメリカを訪問し、乳牛改良状況を伺う機会を得ましたのでその1部をご紹介します。

エリートカウの現況

近年特に注目されている管理形質を筆頭に、泌乳能力また長命性に深く関与する乳器や肢蹄を考慮すると、現在セカンドクロップで活躍中のポルトン(アメリカ)、トイストーリー(アメリカ)、ジエツトストリーム(アメリカ)、FBI(カナダ)の娘牛が対象になり、今春に引き続きシャトル(イギリス)やゴールドウィン(カナダ)の娘牛も2産目を向かえエリートカウとして活躍していました。さらに今後は、ホセ(ドイツ)、ジャーティン(ドイツ)などの欧州種雄

牛を父とするエリートカウも対象になると思われます。

なかでも本団種雄牛JP3H53008ブルーブラッドの同母兄弟にあたる、ポルトン(アメリカ)の娘牛が現在最も注目されているエリートカウでした。娘牛は乳用強健性に富み、幅のある乳器や肢蹄が優れているのが特徴で、合わせて能力も高いことから来春にかけても注目される血液といえます。また、トイストーリーは、さらに資質に富み高能力を発揮しているエリートカウが続出しております。【写真1】・【写真2】

計画交配に利用されている交配種雄牛

今一番多く利用されている人気種雄牛は、何と言っても“スーパー”です。「シャーレステール スーパー ステーション ET」は、父はポリバーで母の父がオーマンで「好体型」「好乳器」「高能力」のスーパーサイアーとして利用されています。分娩難易度が低いことや、アウトクロスとして利用できることから多くのブリーダーが注目している種雄牛です。【写真3】

ネットメリット(指数)を活用しているブリーダーが興味をもっているのが、フレディーです。「バツジャヤーブラツフ ファニー フレディー」はネットメリット(\$)ナンバーワンの種雄牛として注目されています。さらに分娩難易度が低いことや乳器・肢蹄が優れているのが特徴です。また、父オーマンで母の父がダイハードと生涯生産寿命の高い種雄牛が血統に組み込まれているのも、多くのオーマンの息牛がいるなかで特別に注目されている理由の一つのようです。【写真4】

その他、マンオーマン(父:オーマン)は今春から引き続き利用されている種雄牛でした。



写真1 トイストーリーの娘:レーガンクレスト TS ベニツサ ET



写真3 スーパーの娘:ノース ハーバー スーパー 2203



写真2 ポルトンの娘:ポーアイリツシヨ ポルトン チャリティー ET



写真4 フレディーの娘:チエミズ バンダー ロサー フレディー 4660

【血統】

- ユーエフエムダブス サム エリン EX-90(父:リッチロー マーク サム)
- ユーエフエムダブス エレイン VG-86 (父:メルル リンチ)
- ユーエフエムダブス エルブラ ET VG-85(父:ポルトン)
- ユーエフエムダブス エロイ VG-87(父:ロイ)
- ユーエフエムダブス エロタイン ET VG-86(父:シャトル)
- ユーエフエムダブス シーレイ ET VG-88(父:シャトル)

注目されているファミリー

現在、アメリカで注目されているカウファミリーの一つに“エリン”をあげます。【写真5】

エリンファミリーを所有するUFM-DUBS(ユーエフエム ダブス)牧場はニューヨークのタイムズスクエアから車で1時間圏内に位置しています。

UFM-DUBS牧場のUFMとはUplands Farm(高地にある牧場)の略で、DUBSとは牧場主のスティーブ氏の仇名だそうです。【写真6】

当ファミリーは、特にロイの娘牛である「ユーエフエムダブス エロイ」(VG-87)が注目され、そのシャトルの娘牛である「ユーエフエムダブス シーレイ ET」(VG-88)は今もなお、世界中からの遺伝子の注文は絶えません。また、各地で行われているセールでも人気上昇のファミリーです。【写真7】

ファミリーの特徴は乳成分率が高く、体型面では乳器、肢蹄がよく、

管理形質、特に分娩難易や体細胞数が理想的で、さらにアウトクロスを意識しながらファミリーを増やしているのも人気の一つのようにです。

【写真8】

オーナーのスティーブ氏は生産寿命を高める乳牛改良を進めていくにあたり、乳器の改良特に、乳房の付着の強さと底面の高さ、また中央靭帯の強い牛をこれからも追求していきたいと強く語っていました。【写真9】

(改良部 藤田 功)



写真5 エリン本牛(左)は今も健在である。



写真7 注目されつつあるユーエフエムダブス エルブラ ET VG-85(父:ポルトン)



写真8 ユーエフエムダブス シーレイ ET VG-88(父:シャトル)



写真9 オーナーのスティーブ氏

温室効果ガス削減と これからの酪農

酪農学園大学 教授 安宅 一夫

鳩山首相は、9月22日就任早々の国連の演説で、温室ガスを1990年比で2020年までに25%削減すること目指すと表明して話題を呼びました。一方、昨年(2008年)5月14日には、ニュージーランドのクラーク首相が当時の福田首相と会談し、温室効果ガスの一つで、家畜が排出する「げっぷ」に含まれるメタンの発生を抑制する共同研究を進めることを確認し、共同声明を出しました。

ニュージーランドなど酪農先進国では、牛や羊の「げっぷ」によるメタンが国全体の温室効果ガス総排出量の半分近くを占め、家畜による温室効果ガス排出は、政治、社会、経済の重要な問題としてクローズアップされてきました。

温室効果ガスとは？

世界の平均気温は、この100年間で0.74℃上昇し、さらにその温度上昇が加速していると報告されています。その大きな原因は、人為起源による温室効果ガス濃度の上昇にあると考えられています。

京都議定書における排出削減の対象となっている温室効果ガスは、二酸化炭素(炭酸ガス:CO₂)、メタン(CH₄)、亜酸化窒素(一酸化二窒素:N₂O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF₆)の6種類で、人為的に排出される温室効果ガスとしては、二酸化炭素の影響が最も大きいと見積もられていますが、農業・畜産に起因する温室効果ガスとしてはメタンと亜酸化窒素が重要です。またメタンと亜酸化窒素の排出は二酸化炭素に比べて少量ですが、その温室効果は、二酸化炭素のそれぞれ21倍と310倍で強力なため、その制御は緊急の課題です。

日本における温室効果ガスの総排出量は、2007年度において過去最高になり、二酸化炭

素換算で14億トンですが、家畜に起因する割合は約1%です。しかし、メタン総排出量の40%、亜酸化窒素排出量の18%が家畜起源とされています。家畜起源のメタンと亜酸化窒素は、家畜の飼養時に消化管から排出されるメタンと排泄された糞尿の処理過程で発生するメタンと亜酸化窒素があるため、両方の管理が必要です。

家畜によるメタン排出の低減

世界におけるメタンの発生量は、年間5億3500万トンと見積もられ、人為的発生源では、水田から16%、家畜から約23%とされています。家畜における主要な発生源は牛で全体の70%以上、羊10%、水牛9%、山羊4%となっています。

メタンは、反芻家畜の第一胃でメタン細菌によって生産され、あい気(げっぷ)として排出されます。反芻家畜は、人間が利用できない繊維を消化して酢酸や酪酸などの低級脂肪酸(VFA)を生産し、エネルギー源にしますが、同時にルーメン微生物の生育を阻害する水素を発生するので、メタン細菌がこの水素をメタンに変えるのです。牛によるメタン発生量は1日に300~600リットルで摂取したエネルギーの5~10%に相当します。つまり、メタンの発生は、牛にとってエネルギーの損失になるばかりでなく、温室効果ガスの排出になるので、その発生を低減させることは牛の栄養と環境の面からも重要な意義があります。

乳牛における乳量とメタン発生量との関係では、乳量が増加するにつれてメタン発生量は増加しますが、乳量1kg当たりのメタン発生量は減少します。最近報告されたアイルランドの研究では、乳量が1kg増加するにつれて、乳量1kg当たりメタン発生量が約1kg減少することを認めました。

飼料の種類とメタン発生の関係では、メタンはメタン細菌が繊維を分解するときに発生す

るので、繊維の少ない濃厚飼料の割合が高くなるとメタンの発生量が少なくなります。しかし、濃厚飼料の割合が高くなりすぎると乳脂率の低下や病気が増加するので適切な割合にする必要があります。

粗飼料の種類では、アルファルファのようなマメ科牧草はイネ科牧草よりNDF(総繊維)含量が低く、アルファルファ主体あるいはアルファルファとトウモロコシサイレージの組み合わせはメタンの発生量を低減する効果があります。古くから先進酪農家は、アルファルファとトウモロコシを組み合わせると乳生産が高まることを知っていましたが、乳牛にも環境にも優しい飼料だということがわかりました。

また、油脂の添加によってメタンの発生が少なくなることも知られています。

糞尿からのメタンと亜酸化窒素の発生

日本における家畜排せつ物由来の温室効果ガスは、メタン240万トン、亜酸化窒素490万トンで日本における総排出量の約0.6%と推定されています。これらの発生量は処理方法によって変化し、メタンの発生は污水浄化処理で低いのに対し、堆積堆肥、貯留処理で高くなります。

亜酸化窒素は、貯留方式や通気型堆肥で低く、堆積堆肥や污水浄化で高くなります。このように糞尿からのメタン発生は通気などで好気的な処理システムを採用することによって容易に削減できますが、通気に要するエネルギーが多くなり、亜酸化窒素発生の制御は難しいとされています。

本学では、糞尿処理の新しい方法としてメタン発酵法を採用しています。これは、糞尿を密閉したタンクに入れ、嫌気性細菌によって有機物をバイオガスへと分解する方法です。バイオガスの発生量は、牛糞尿1トン当たり100-300Lで、ガスの成分は、メタン60%、二酸化炭素40%であり、これを燃焼して400 kWhを超える電気を生産できます。このシステムではスラリー処理に比べ悪臭物質や温室効果ガスの放散がなく、環境にやさしい糞尿処理方法として注目されています。

酪農の進歩と温室効果ガスの排出

過去数10年、世界の酪農は著しく変化しまし

た。マスコミや一部の消費者には、昔の牧歌的な酪農は環境にやさしいが、現在の効率的な酪農は環境に大きな負荷を与えているというイメージがあるようです。本当でしょうか？

このことに関連して、コーネル大学は、酪農が環境、とくに温室効果ガスの排出に及ぼすインパクトを検討した論文を発表しました。これは、アメリカにおいて、現在(2007年)と65年前(1944年)の技術、投入された資源、産出された牛乳、排出された温室効果ガスなどについて統計データとモデルを用いて解析したものです。

アメリカにおいて、65年前の乳牛品種には、ジャージー、ガンジー、エアーシャーのような小型種とホルスタイン、ブラウンスイスの大型種がほぼ半々飼養され、100%自然交配で授精を行い、年間平均乳量は2,074kgで、飼料は、ケンタッキーブルーグラス、チモシー、オーチャードグラス草地を用いた放牧をベースに乾草と濃厚飼料が分離給与されていました。現在では、乳牛品種はホルスタインが90%を占め、年間平均乳量は9,193kg、交配は、70%が人工授精、30%が自然交配で、飼料は、トウモロコシサイレージとアルファルファサイレージをベースとしたTMRが給与されています。

65年前には2,560万頭の乳牛から5,310万トンの牛乳が生産されました。現在、乳牛は920万頭と約1/3に減少しましたが、乳生産量は8,420万トンと1.6倍に増加しています。この論文では個体あたりの投入と産出を比較するのではなく、乳量100万トンあるいは1kgあたりに要する投入量と産出量を比較検討しているところが注目されます。要約すると、牛乳100万トン生産するためには、65年前には41万頭の乳牛が必要でしたが、現在では1/5の9万頭へ減少し、飼料給与量は、原物で826万トンから188万トンへ、耕地面積は、171万ヘクタールから16万ヘクタールへ、水要求量は、1,076万トンから379万トンへ、それぞれ減少しています。そして温室効果ガスでは、メタンは、61,800トンから26,800トンへ、亜酸化窒素は、412トンから230トンへ、総排出量は、二酸化炭素換算で366万トンから135万トンへとそれぞれ56%、44%、63%へ減少したと試算されています(図1)。

FAOによると、世界の温室効果ガスの18%が家畜に起因していると報告されていますが、アメリカでは6.4%であり、酪農に起因するものは1%以下であるといわれ、このことは、コーネル大学の研究を裏付け、近代的な改善された技術に基づく酪農は温室効果ガスの排出削減に効果があることを示しています。

生産性を改善し、温室効果ガスを削減する技術として重要なものは、①乳牛改良、②飼料設計、③病気の予防、④カウコンフォート、⑤飼養管理の改善などがあげられます。

最近、わが国でも年間乳量2万kg以上のスーパーカウが数多く誕生しています。スーパーカウは、低泌乳牛に比べ、飼料1kgから生産する牛乳の量が多く、効率がよく(図2)、牛乳1kg生産に伴う糞尿の量が著しく少ないことが知られています(図3)。したがって、これからは単に頭数を増やすというのではなく、精鋭牛群(エリートハード)による経営管理など環境への配慮も重要な選択になります。

一方、国全体として能力の低い乳牛を用いて低投入の技術を採用して、現在の国内牛乳生産量を維持しようとするれば、より多くの糞尿が排泄され、その処理量が増加し、またメタンや亜酸化窒素のような温室効果ガスの排出量も増加するでしょう。

これまで先進的なリーダーが努力してきたようにこれからの時代においても、「牛づくり、草づくり、土づくり」は永遠の課題ではないでしょうか。

図1.アメリカ酪農におけるCO₂排出量の変化(コーネル大)

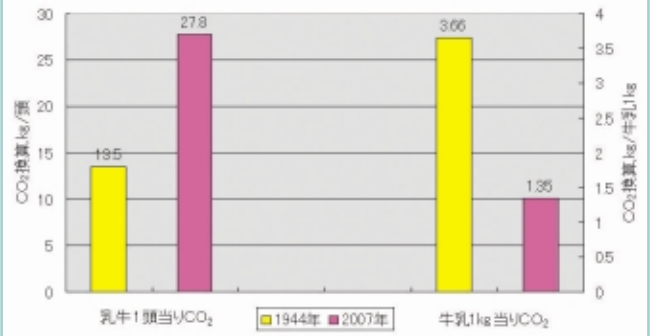


図2.飼料DM1kgから生産される牛乳の量(酪農学園大)

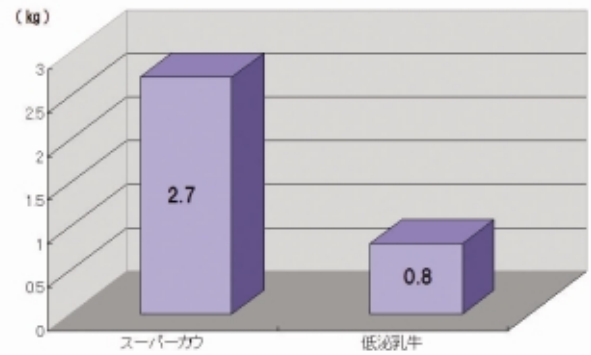
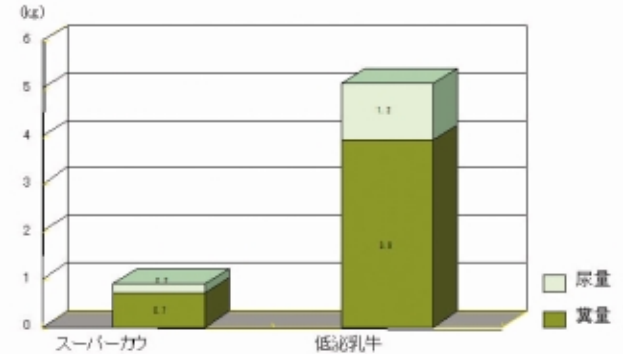


図3.1kgの牛乳生産に伴い排泄される糞・尿の量(酪農学園大)



牛声和楽 第三話

スペインの闘牛を見ていると、牛は赤色を嫌がっているのか好きなのか、とにかく牛猛突進である。しかし、どうも軽く『いなされる』光景もみるし、グサグサに首辺りに剣が刺されている残酷な画像はやりきれない。反面、日本では馬鹿でかい黒牛(和牛)が角を突き合わせて『おしくらまんじゅう』であり、相撲を連想させられる。

人間は乳にお世話になり、肉を貪り食いながら紀元前から牛を飼育し、大切に育て上げたのだから正に牛は命の恩人である。

一方で金儲けのための道具にさせられた悲しい歴史

でもある。ヨーロッパでは細かい石畳の道路を何10頭もの牛が暴走する祭りがある事もニュースで知った。

貧しい時代に育った者は肉も魚も野菜も腐っていることにも気付かず有難く頂戴し、成長した旧人類が多い。消費期限、賞味期限などの発想はなかった。しかし、嗅覚だけは鋭く、事の判別をつけ、ベツと吐き出す能力を持っていた。

サイアの写真を見ていて気付いた事があった。前足二本の下に草やら土が盛ってある写真である。前足が短足の為、水平に見せ均整のとれた体を見せるためのものと想像している。動く牛を瞬時に撮影する神業にも、只々感心させられる。

(コラムニスト 舞 愛一)

連載② サイロ・サイレージ物語

～世界では古代エジプト時代からつくられていた～

日本酪農の先駆者 宇都宮仙太郎翁は「サイロとは生物(なまもの)をそのまま貯蔵する建物の名にして、エンシレージ^{*}は、貯蔵された生物なり」(北海道の殖産, 1892)と述べ、また、「冬期間の飼料として動物の生理上、栄養上より、ここにエンシレージの右に出るものはない」(乳牛タイムス, 1926)とその価値を高く評価している。

それではサイレージはいつ頃からつくられていたのだろうか。サイレージの起源は古代エジプトの壁画などから推定すると、紀元前3000年以前からつくられていたようで、人類は5000年もの長い間、サイレージを利用している。

サイロの語源は青草を貯蔵するために地面に掘られた「くぼみ穴」を意味するギリシャ語のsirosに由来する。また、紀元前1200年頃のカルタゴ(北アフリカ)の遺蹟には、青草をサイレージに調製する様子を描いた壁画に残されている(図)。

古代地中海地方のある村で、貯蔵条件として空気を遮断することの大切さに気づき、積み上げた草の上に家畜の糞を載せて密封したことが記録に残っている(サイレージの生化学, 1991)。

このように、サイレージは乾期になるとやせ細る家畜を生き延びさせるための命綱だった。

本格的にサイレージに関心が高まるのは19世紀半ばで、フランスの農民goffartがトレンチサイロで牧草類の詰め込み実験をした結果、良いサイレージをつくるには①できるだけ速く完全に空気を排除する②早く詰め終わる③密封して気密にする—ことを明らかにし、その体験に基づく著書を1877年に出版している。

一年後に英訳本がアメリカで出版され、アメリカの農民たちがこの新技術を受け入れたといわれる。

その頃、ニューヨークで開かれたエンシレージ会議において、スミスという農民が「天候に左右されることもなく一頭飼いの牛を二頭に増やすことが可能になる。この粗飼料貯蔵システムの有用性は疑う余地がない。これを開発したgoffart氏に感謝する」と感想を述べている。

当時、アメリカでは1876年にトレンチ式サイロ(溝を掘ったもの)が造られ、その後、ウイスコンシン大学に大きなタワーサイロ(塔式)が造られている。

科学的なサイレージの研究は1880年頃からヨーロッパで活発になり、1929年にフィンランドのビルターネン博士がサイレージの生化学を研究し、塩酸添加による調製法(AIV法)を開発するとともに家畜栄養学の新しい道を切り開いた。彼はこの功績で1945年にノーベル化学賞を受賞している。

わが国では1896(明治29)年、札幌の真駒内種牛場でエドウィン・ダンなどお雇い外国人によって地下式サイロでサイレージがつくられている。一方、1887(明治20)年、群馬県の神津牧場で最初にサイレージ調製が行われたとする記録がある。

その後、各地でサイレージづくりが行われるようになり、大正初期頃に札幌で木造タワーサイロ(写真)が建てられ、越冬飼料としてトウモロコシサイレージがつくられた。このサイロは隙間から空気が入り、気密性は低かったと想像されるが、当時として画期的な技術であったことに間違いなく、酪農家の心意気が伝わってくる。



古代エジプト時代のサイレージ調製風景。穴を掘って青草を詰め込んでいる。(須藤浩, 1966)

^{*}エンシレージ[ensilage]
トウモロコシ・ライムギ・エンバクなどの青刈り作物や牧草をサイロの中に詰め込み、乳酸菌酵させて貯蔵すること。→サイレージ (GH編集者より)

札幌市北区
近藤牧場の
木造サイロ
(1925年建造)



性選別精液 (GH-X・F) のご紹介

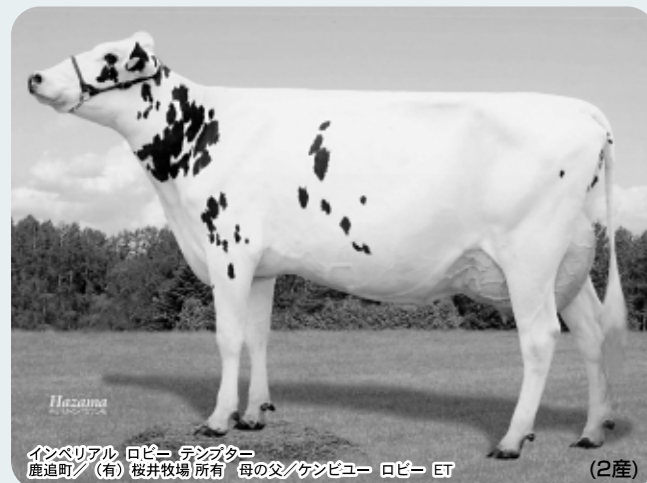
本団の性選別精液 (GH-X・F) は、最新のNTP成績に基づき、能力と体型はもとより、受胎率も重視して、現在、7頭を中心に供給しております。是非のご利用をお待ちしております。

JP3H53364

NTP No. 9

ハッピーイースト アール エス テンプター ET

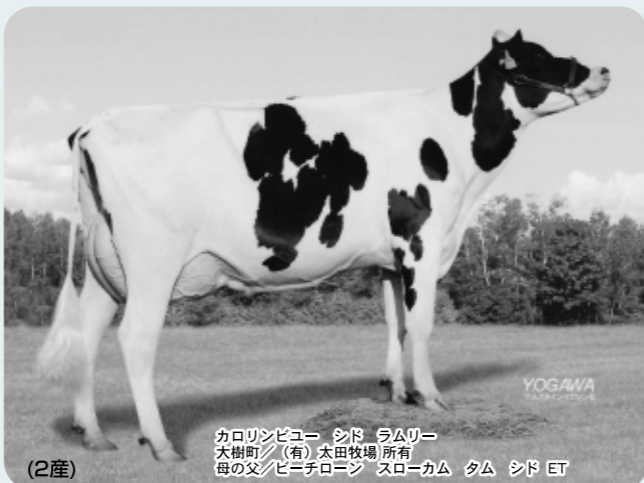
HAPPY EAST RS TEMPTER ET



インベリアル ロビー テンプター
鹿追町 (有) 桜井牧場 所有 母の父/ケンピュー ロビー ET (2産)

母系「ジエム」ファミリー の「高能力」・「好体型」

モーティー アーロン ルドルフ メルウード



カロリンビュー シド ラムリー
大樹町 (有) 大田牧場 所有
母の父/ピーチロニク スローカム タム シド ET (2産)

特に産次を重ねて充実する「前乳房の付着」・「後乳房の高さと幅」に優れた「好乳器」の娘牛が多く見受けられます。

決定得点 +2.05
全国 第2位

体型成分 +336
全国 第3位

乳器 +2.03
全国 第5位

NTP +1.974

JP3H53306

NTP No. 17

レデスマナー テンプトレスト ハイデン ET

LADYS-MANOR TEMPRESST HIDEN ET



ツダファーム ハイデン サベジ
熊本県 (有) つた牧場 所有
母の父/ピーチロニク スローカム タム シド ET

「好体型」・「高乳脂量&率」種雄牛!

肢蹄 +1.56
全国 第1位

決定得点 +1.84
全国 第4位

乳脂率 +0.08%
全国 第6位

NTP +1.881

JP3H53370

NTP No. 24

タンロック ダルビツシュ ET

TAN-ROCK DARVISH ET



ホームス ダルビツシュ ロータリー
八雲町 林 文三氏 所有
母の父/テスクホーム ツルー グリット ET

母系は「ベルウッド リンダ」ファミリーの「好体型」特に「好乳器」種雄牛!!

体型成分 +298
全国 第7位

乳器 +1.79
全国 第7位

肢蹄 +0.69
全国 第10位

NTP +1.799

JP3H53476

NTP No. 28

キー ゴールドティー マツク

KEY GOLD-TEA MAC



クリスチナ マツク ジエネラル
雄武町/砂金 勇一氏 所有 母の父/コムスター リー ET

母系「ニール フルート」ファミリーの安定した泌乳能力種雄牛

●泌乳持続性102と高い乳量・乳成分量に富む
●肢蹄・乳器良好

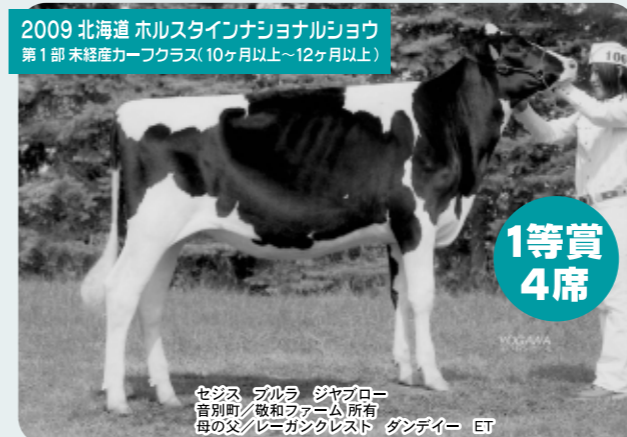
NTP +1.718

JP3H53008

NTP No. 66

サンデイバレー ブルーブラッド ET

SANDY-VALLEY BLUEBLOOD ET



2009 北海道 ホルスタインナショナルショウ
第1部 未経産カーフクラス (10ヶ月以上~12ヶ月以上)

1等賞
4席

セジス ラルラ ジャブロー
音別町/敬和ファーム 所有
母の父/レガシクレスト ダンディー ET

抜群の体型改良効果を示す、ショータイプ娘牛が続々誕生中

●決定得点・乳用強健性・乳器・肢蹄ともに国内種雄牛でトップレベル
●管理形質では、在群期間、泌乳持続性に富み、体細胞スコアが低い

NTP +1.379

JP3H52254

NTP No. 19

レーガングレストBE ランツ デニス ET

REGANCREST-BE LANZ DENIS ET



サンヒル ロケット デニス 匠ノス
遠別町/菅野 武雄氏 所有 母の父/サンデイバレー ロケット ET

好体型で乳成分率オール プラス

●乳蛋白質率 +0.22%
●乳脂肪率 +0.16% ●SNF率 +0.16%
●乳用強健性に富む好体型牛で、特に後乳房の幅良好

NTP +1.834

JP3H52844

NTP No. 44

レデスマナー ディーラン ET

LADYS-MANOR DYLAN ET



(左より)
ロマンス レディース ディーラン
岡山県/甲元 敬司氏 所有 母の父/ブルシヤンスキー パーマ ET
ロマンス グローバー アスター レディ
岡山県/甲元 敬司氏 所有 母の父/デュリーガル アスター スターバック ET
ピースランド ディーラン ランツ
新冠町/木村 和仁氏 所有 母の父/ハイサイツ オーガスタ ET

決定得点は国内トップクラス

●肢蹄 +1.67
●乳器 +1.54と高水準

NTP +1.610

第6回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会

10月3日、北海道畜産公社道東事業所十勝工場において「第6回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会」が開催されました。その概要をご報告します。

【出品頭数】

総頭数は86頭(去勢56頭、雌30頭)、うち「現場後代検定の部」33頭(去勢15頭、雌18頭)、「一般牛の部」53頭(去勢41頭、雌12頭)でした。

種雄牛別に見ると、「一般の部」では、本団を代表する種雄牛『北平安』(36頭)をはじめ、『北勝隆25』(10頭)、『北茂勝96』(1頭)など7種雄牛の産子が出品され、「現場後代検定の部」では、平成18年に検定が始まった『鶴福谷52』(5頭)、『北乃峰50』(2頭)、『北平福57』(8頭)、『茂波栄58』(5頭)、『菊糸松56』(13頭)の5種雄牛の産子が上場されました。

本共励会は現場後代検定の普及推進を図ることを主目的にしており、検定調査牛が多く出品されるのが特徴でもあります。

【入賞牛】

最高位である名誉賞は、「一般牛の部」出品のJA帯広川西(株)トヨニシフードテックの『なみこ』号(『北平安』×『平茂勝』×『谷茂』)に輝きました。枝肉重量501kg、ロース芯面積77cm²、バラの厚さ8.6cm、皮下脂肪2.2cm、歩留基準値76.9%、

BMS No.11、格付A-5でした(写真1)。審査委員長の日本食肉格付協会 北海道支所 帯広事業所の曾谷所長の講評では「体型が良好で、腰部・モモも大変充実し、ボリューム感のある枝肉であり、モモへのサシの抜け状況も今共励会のトップクラスで、切開面の肉質も良好できめ細かく十分にサシが入っており、光沢も十分で、肉色・肉締まりも良いものであり、審査委員全員一致で選出になった。」と評されるレベルの高い枝肉でした。

「一般牛の部」最優秀賞は、JA新冠町 庄司 敏さん出品の去勢牛『紅葉丸』号(『東龍』×『平茂勝』×『藤桜』)が獲得しました。枝肉重量463kg、ロース芯面積76cm²、バラの厚さ8.6cm、皮下脂肪1.4cm、BMS No.12、格付A-5で、かぶりの厚さと肉の光沢、モモ抜けの状況で名誉賞を譲ったものの、高評価を得た枝肉でした(写真2)。

また、「現場後代検定の部」最優秀賞は、JA浦幌町 大西孝幸さん出品の去勢牛『菊松』号(『菊糸松56』×『賢深』×『糸光◆』)が選出され、枝肉重量459kg、ロース芯面積61cm²、バラの厚さ7.8cm、皮下脂肪3.4cm、BMS No.11、格付A-5で、肉質で名誉賞との差が若干あったとの講評でした(写真3)。

写真1



写真2



【平均枝肉成績一父牛別】(表1 ※14ページに掲載)

①H黒-80『北平安』

今まで(平成21年10月上旬現在)、本団収集データの平均BMS No.は去勢で7.0(544頭)雌7.3(196頭)と好成績を示しており、本共励会においても特に雌11頭の平均BMS No.8.5は注目に値するものでした。

②H黒-125『北勝隆25』

第3回GH共励会において、最優秀賞・優秀賞を獲得し注目を集め、本共励会では出品10頭(去勢9頭、雌1頭)中A-5が4頭(去勢3頭、雌1頭)であり、今後の産肉成績の増加が、期待されています。

③H黒-45『東龍』

「一般牛の部」で最優秀賞を獲得しており、全国の共励会でも活躍しているGHを代表する種雄牛です。

④その他

現在、全国の枝肉共励会において好成績を上げている、『北乃大福』『北茂安93』『北茂勝96』が出品され、今後の頭数増加が楽しみです。

【現場後代検定中の種雄牛紹介】(略号順)

①H黒-150『北乃峰50』

『第1 花国』×『神高福』×『第20平茂』。鹿児島県産の母『あいこ』に『第1 花国』を交配した種雄牛で、枝肉重量と肉質改良を期待して導入した種雄牛です。

②H黒-152『鶴福谷52』

『鶴山土井』×『谷福土井』×『菊照土井』。純粋な但馬の系統で造成された種雄牛で、特に肉質改良に期待する種雄牛です。

写真3



③H黒-156『菊糸松56』

『寿恵福』×『第7系桜』×『菊照土井』。肉質に抜群の実績を持つ本団種雄牛『北金波1』の母親である『もりひめ2』に、増体を補完すべく、『第7系桜』と『寿恵福』を二代に渡り交配し作出された種雄牛です。また、本牛の兄も肥育され、高い肥育実績(BMS No.11)を持っています。

現場後代検定調査頭数は35頭いますが、本共励会を含め、すでに出荷されたものが17頭あり、上物率は53%となっています。それらの枝肉成績の平均は枝肉重量455.8kg、BMS No.は6.0です。特に、去勢の出荷頭数13頭のうち6頭の枝肉重量が500kgを超えており、種雄牛の遺伝力の強さが伺えます。本共励会では最優秀賞と2点の優良賞を獲得しておりますので、残る検定調査牛の18頭について、注目をしながら見守りたい種雄牛です。

④H黒-157『北平福57』

『北平安』×『第2安鶴土井』『菊照土井』。但馬の中でも肉質改良で定評のある『第2安鶴土井』を父にもつ母親に、本団を代表する種雄牛『北平安』を交配し、更なる肉質の向上を期待する種雄牛です。

⑤H黒-158『茂波栄58』

『宮福茂』×『越照波』×『茂金波』。但馬の中でも系統を異にする茂金系の交配により造成された種雄牛です。

【最後に】

今回の共励会は過去最高の水準にありました。枝肉重量とBMS No.の平均および上物率は過去最高の成績で、ロース芯面積、バラの厚さ、歩留基準値についても歴代2位の好成績でした。(表2 ※14ページに掲載)日頃からの生産者の皆様のご努力と、本共励会に対するご理解、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

なお、本共励会は毎年10月の第1回目のホクレン十勝枝肉市場に合わせて開催する予定です。来年度以降に向けてもご協力を宜しく願い申し上げます。

〈参考〉

(表1) ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会 枝肉成績表 年次推移

	回時	頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留まり基準値	BMS	BCS	枝肉		上物率
											単価	売上金額	
去勢平均	第1回	35	28.9	431.9	54.5	7.26	2.17	73.99	4.70	3.89	1,828	790,670	34.3%
	第2回	17	29.1	439.5	56.0	7.61	2.28	74.22	4.94	4.19	1,930	855,540	47.1%
	第3回	18	28.5	454.1	55.3	7.55	2.69	73.57	5.67	3.61	2,063	940,644	61.1%
	第4回	27	29.3	466.9	61.1	8.20	2.10	75.00	6.60	3.80	2,026	951,083	74.1%
	第5回	51	28.4	458.9	58.7	7.70	2.39	74.30	5.92	3.47	1,644	759,186	58.8%
	第6回	56	28.8	470.8	58.3	7.90	2.38	74.25	6.32	3.70	1,672	785,739	66.1%
雌平均	第1回	10	29.7	390.3	54.0	7.54	2.99	73.89	5.30	4.20	1,840	718,219	40.0%
	第2回	23	29.0	416.5	54.0	7.69	2.67	73.95	4.48	4.00	1,841	766,688	30.4%
	第3回	37	29.5	422.3	54.8	7.64	3.01	73.67	5.49	3.68	2,034	862,439	51.4%
	第4回	25	30.1	409.7	55.6	7.70	2.40	74.50	4.70	4.20	1,722	708,978	24.0%
	第5回	34	29.7	397.7	56.3	7.41	2.43	74.54	5.59	3.79	1,471	591,073	50.0%
	第6回	29	29.7	405.2	57.7	7.59	2.44	74.73	6.14	3.86	1,551	644,445	44.8%
全体平均	第1回	45	29.1	422.7	54.4	7.32	2.35	73.97	4.82	3.96	1,830	774,570	35.6%
	第2回	40	29.0	426.3	54.8	7.65	2.51	74.07	4.68	4.08	1,879	804,450	38.0%
	第3回	55	29.2	432.7	54.9	7.61	2.91	73.64	5.55	3.65	2,043	888,034	54.5%
	第4回	52	29.6	439.4	58.4	7.96	2.24	74.79	5.65	3.98	1,880	818,937	50.0%
	第5回	85	28.9	434.4	57.8	7.59	2.40	74.40	5.79	3.60	1,575	691,941	55.3%
	第6回	85	29.1	448.4	58.1	7.79	2.40	74.42	6.26	3.75	1,631	737,533	58.8%

(表2) 第6回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会 種雄牛別枝肉成績表

※頭数が0頭の場合は省略してあります。

	父 略号・名号	性別	頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留まり基準値	BMS	BCS	枝肉		上物率
												単価	売上金額	
1	H黒-36 北賢桜	去勢	1	26.7	399.0	54.0	6.5	1.6	74.4	4.0	4.0	1,220	486,780	0.0%
		計	1	26.7	399.0	54.0	6.5	1.6	74.4	4.0	4.0	1,220	486,780	0.0%
2	H黒-45 東龍	去勢	2	30.8	480.5	64.0	8.5	2.5	75.1	7.5	3.5	1,765	838,195	50.0%
		計	2	30.8	480.5	64.0	8.5	2.5	75.1	7.5	3.5	1,765	838,195	50.0%
3	H黒-80 北平安	去勢	25	29.5	467.2	57.8	7.8	2.2	74.4	6.8	3.6	1,697	790,684	72.0%
		雌	11	30.7	437.1	66.7	7.9	2.2	75.9	8.5	3.8	1,930	851,287	81.8%
		計	36	29.8	458.0	60.6	7.9	2.2	74.8	7.3	3.7	1,768	809,202	75.0%
4	H黒-96 北茂勝96	去勢	1	27.3	476.0	62.0	7.8	2.7	74.3	5.0	3.0	1,950	928,200	100.0%
		計	1	27.3	476.0	62.0	7.8	2.7	74.3	5.0	3.0	1,950	928,200	100.0%
5	H黒-93 北茂安93	去勢	1	28.2	504.0	69.0	10.0	3.1	76.0	5.0	4.0	1,710	861,840	100.0%
		計	1	28.2	504.0	69.0	10.0	3.1	76.0	5.0	4.0	1,710	861,840	100.0%
6	JB24 北乃大福	去勢	1	29.4	520.0	63.0	8.0	1.5	75.1	5.0	4.0	1,510	785,200	0.0%
		計	1	29.4	520.0	63.0	8.0	1.5	75.1	5.0	4.0	1,510	785,200	0.0%
7	H黒-125 北勝隆25	去勢	9	28.6	482.6	60.6	8.1	2.6	74.4	5.8	3.9	1,636	786,726	55.6%
		雌	1	30.9	490.0	62.0	8.1	2.0	75.0	8.0	4.0	1,840	901,600	100.0%
		計	10	28.8	483.3	60.7	8.1	2.5	74.4	6.0	3.9	1,656	798,213	60.0%
8	H黒-146S 菊安裕3	去勢	1	27.3	350.0	55.0	6.7	1.8	75.0	7.0	4.0	1,610	563,500	100.0%
		計	1	27.3	350.0	55.0	6.7	1.8	75.0	7.0	4.0	1,610	563,500	100.0%
9	H黒-150 北乃峰50	雌	1	31.1	476.0	55.0	8.5	2.6	74.0	4.0	3.0	1,430	680,680	0.0%
		計	1	31.1	476.0	55.0	8.5	2.6	74.0	4.0	3.0	1,430	680,680	0.0%
10	H黒-152 鶴福谷52	雌	5	29.6	342.4	51.0	6.9	2.4	74.2	3.4	4.0	1,100	381,710	0.0%
		計	5	29.6	342.4	51.0	6.9	2.4	74.2	3.4	4.0	1,100	381,710	0.0%
11	H黒-156 菊糸松56	去勢	11	27.8	476.5	55.2	7.7	2.9	73.2	6.0	3.8	1,625	773,760	54.5%
		雌	2	27.7	444.0	54.0	7.1	2.5	73.4	7.0	4.0	1,580	697,720	100.0%
		計	13	27.8	471.5	55.0	7.6	2.8	73.2	6.2	3.8	1,618	762,062	61.5%
12	H黒-157 北平福57	雌	4	28.2	474.0	59.5	8.3	2.2	74.8	6.5	3.5	1,773	835,125	100.0%
		計	4	27.6	371.0	50.5	7.5	2.0	74.6	4.3	3.8	1,353	501,875	0.0%
		去勢	8	27.9	422.5	55.0	7.9	2.1	74.7	5.4	3.6	1,563	668,500	50.0%
13	H黒-158 茂波栄58	雌	5	29.9	378.8	52.0	7.5	3.3	73.5	4.8	4.0	1,280	486,194	20.0%
		計	5	29.9	378.8	52.0	7.5	3.3	73.5	4.8	4.0	1,280	486,194	20.0%

(改良部 石田 誠)



家畜(牛)人工授精関係の講習会 修業試験合格者について

農林水産大臣から指定を受け実施している家畜(牛)人工授精関係の講習会修業試験で、本年度は次の方々が修業試験に合格されました。

家畜(牛)人工授精に関する講習会

開催日 平成21年5月11日から6月5日

場 所 財団法人 清水町農業振興公社
上川郡清水町字御影南2線77

修業試験合格者

砂金 憲幸	富永 晃司
金谷 淳史	野間 貴夫
佐藤 和希	美馬あい子
武田 学	山田 圭介
中洞 裕	大石 幸男
細川 隆一	國井 遥香
森田 秀矢	島 里実
吉田 辰也	豊田 庸三
石井 克昌	福本 治
河田 憲嗣	武藤 健作
澤田 賢	山本 政人
戸田 彩香	小田 剛史
名和 健太	齋藤 雅子
松下奈々恵	高橋 弘樹
山木 薫	長岡 好晴
石坂 巧	藤山 茂
工藤 将太	森下 伸
篠永 亨	吉田 真悟

家畜(牛)体内受精卵移植に関する講習会

開催日 平成21年8月24日から9月10日

場 所 財団法人 清水町農業振興公社
上川郡清水町字御影南2線77

修業試験合格者

姉齒 拓也	谷村 幸司
工藤 進	藤原 誠
高尾 進	吉田 和弘
原賀 俊行	上田 七加
三森 健太	櫻井 隆弘
阿部 啓一	千葉 竜平
坂口 昌徳	松村 あき
高橋 藍未	渡辺 雄太
樋岡小百合	菊一 悦子
村上 博亮	鈴木 直輝
伊藤 淳	中田 賢大
坂本 幸造	三谷加奈子

全道共進会で最高位賞!!



第28回 北海道肉用牛共進会

去る、平成21年9月5日～6日に音更町にて開催された「第28回北海道肉用牛共進会」において、幕別町 山田貴赦氏出品牛が母系群1等1席【母牛「あいこ」(父:平茂勝)、娘牛「あいこ2」(父:H黒-80『北平安』)]を獲得し、更に、牛群の部【父系群・母系群・経産牛】で見事最高位賞を獲得されました。その栄誉を称え、平成21年10月3日に行われた、「第6回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会」において、本団、家畜改良顕彰要領に基づき表彰させていただきました。



ホームページ <http://www.genetics-hokkaido.ne.jp>

〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F
[業務部]
TEL (011) 242-9645 FAX (011) 242-9651
[改良部]
乳牛改良課 (011) 242-9646
肉牛改良課 (011) 242-9647

●道北事業所… TEL(0166)57-6111 FAX(0166)57-6113
●道東事業所… TEL(0153)72-4554 FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所… TEL(011)375-4422 FAX(011)375-2330
●十勝北見事業所… TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●十勝清水種雄牛センター… TEL(0156)62-2158 FAX(0156)62-2150
●道央種雄牛センター… TEL(011)375-3939 FAX(011)375-2330

「ジェネマガ」(メールマガジン) 読者募集中!